



併設の小学校と紙面上の交流「こんどは、一緒にしたいね」



「色の階段」  
「青色の階段だね」



山桃の色水は  
「しょうぼうじどう車色」



大きなザルに花をいっぱい入れて  
漬してみる「どんな色水になる？」



「発見！  
これが赤い色のもと？」



「赤色ワイン、いっぱい作ろう！」



# 「あつ、色の階段」 「青色の階段だね」

協力園  
学校法人別府大学  
明星幼稚園

（幼児の実態）  
『ふるさとのたからもの』の読み聞かせを聞いた5歳児の子どもたちは、別府の地獄の多様な色（※1）に驚いたり、地獄と似ている色を見付けたり、クレヨンや絵の具で好きな色を作ったりして色遊びを楽しんでいました。園庭のサルビアの花が咲き始めると、子どもたちは、散った花を拾ってカップの中でかき混ぜたり、指の先で潰したりして色水遊びを始めました。それから、色の出そうな花や葉を園庭で探したり、近くの学校から赤い山桃の実を分けてもらったりするなどして色水遊びを楽しんでいます。

「おうちにも花が咲いてたから持って来た」と、色水遊びを楽しみに登園してきた子どもたちは、保育者と一緒に手洗い場の近くに日よけのテントを出し、材料や道具を置くテーブルを用意しました。この日は、オシロイバナ、パンジー、ペチュニア、マリーゴールド、赤しそ、山桃の実などたくさんさんの草花や実が集まりました。大小のペットボトルやプリンカップ、ポウル、ビニール袋、すりこ木、すり鉢などの道具もありました。天気の良いこの日、保育者は、さげ紐のついたビニール袋も用意しました。作った色水を園庭のフェンスに吊るして楽しむ子どもも見られるのではないかと考えたのです。「色水ができたなら入れてもいいよ」と子どもたちには伝えておきました。

子どもたちは、山桃の実をすり鉢とすりこ木で潰そうとしています。出てきたのは紫がかった赤色。プリンカップに移して「わあ、赤いよ！」「ワインみたい」と見立てる女の子たち。大きなペットボトルを用意して「赤ワイン、いっぱい作ろう」と協同してすり潰し始めました。小さなすり鉢に山桃を入れて潰し、水を加えてペットボトルに入れることを何度も繰り返ししていました。「すっこい、きれいだね」でも、酔っぱらっちゃうかも？」と笑いながらワインの色水作りを楽しんでいます。

近くで、同じようにすり鉢とすりこ木を使って山桃を潰して色を出していたS児は「コロコロ動いて潰しにくい」と実を手で揉み、潰し始めました。実が潰れ、種からはがされた果肉は、S児の手の中でさらに赤い小さな粒になっています。「先生、発見！これが赤い色のもとかも？」と粒のついた手を保育者に見せます。赤の色素は、小さな粒にあるのではないかと考え、そのことを「発見」と保育者に伝えました。「そうかもね？」保育者はそう言って自分も手で潰して「これかな？」と赤い粒をS児と見せ合いました。

大きなザルに花を入れ、それを水の入ったボールに入れて色出しをしている二人組もいます。初めは、赤いオシロイバナを入れてすりこ木で潰しています。ポウルが銀色なので色の出方がはつきりしません。「何色か確かめようよ」R児は、道具コーナーへ移動しました。そこで紐付きビニール袋を選んだR児は、色水を移し替えると「あー、やっぱり赤い花は赤い色水になったね」とT児と確認します。それから太陽の光がよく当たるフェンスに吊ると「きれいだね」「透き通ってるな」とT児とまた確かめました。

山桃をすり潰して、「消防自動車色」と大好きな車の色に見立てているのはT児。色水をビニール袋に入れた子どもたちは、「私、ピンク」「濃いピンク」「ちょっとオレンジ」「お茶色グリーン」などと出来た色水に名前を付けたり、友達と比べたり、保育者に見せたりしています。

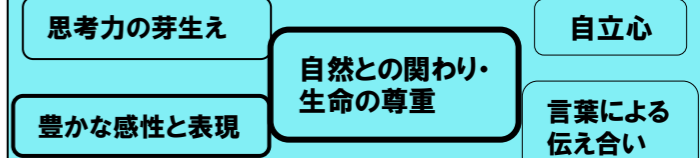
色水をフェンスに吊るした子どもたちは、「ピンク色グループ集まれ」「このピンクとこのピンク少し違う色」と同系色の色を集めたり、わずかな色の濃淡に着目したりしています。友達が、赤系や青系、紫系の色水をフェンスに掛ける中、M児は、色が薄い順に階段状に掛けられた青色水に気がきました。「あつ、色の階段や」とM児が言葉にすると、横で見ている友達も「青色の階段だね」とその様子を言葉にします。フェンスの向かい側で見ていた友達は、指でトン、トン、トンと色水の階段を駆け上がる仕草をしながら話に加わり、青色の階段を発見したことを喜び合っています。

併設の小学校の三年生と、色水遊びの交流を予定していましたが、新型コロナウイルスの拡大で実施が叶いませんでした。保育者はその代わり、色水遊びの写真や子どもたちの感想をドキュメンテーションにして、三年生に届けました。三年生からは、「きれいな色水ができたね」「今度は一緒にしたいね」などのコメントが寄せられました。幼稚園の子どもたちも「この人、ぼくの友達」と指差ししたり「きれい」って言ってもらえてうれしい」と喜んでいたりして紙面での交流を楽しんでいました。

※1  
別府地獄巡りでは、海地獄の「青色」、血の池地獄の「赤褐色」、白池地獄の「薄青緑色」、坊主地獄の「灰色」など多様な色が見られる。

参考文献  
入門教材『ふるさとのたからもの』：「地域の色・自分の色」研究会編  
実践記録『ふるさとのいろあそび』：「地域の色・自分の色」研究会編

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」



自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にしたい気持ちをもって関わるようになる。

### 事例から見られる10の姿の育ち 自然との関わり・生命の尊重

草花や木の木の自然物を材料とする色水遊びの中で、子どもたちは、揉んだり潰したりしながら実や花から抽出された色の美しさに感動したり、出てきた色に名前を付けたりして楽しんでいる。  
山桃の果肉の中の細かな赤い粒に気付いたS児は「赤色のもとかも？」と、赤い色素の原因を考えたり、予想したりしながら遊んでいる。また、赤のオシロイバナを潰したR児は「赤い花は赤い色水になる」と花と色水の関係性を捉えようとしている。

色水遊びでは、身近な自然などに好奇心や探究心をもって関わり、気付いたことや考えたことなどを言葉で表現しながら、次々と関心をもって自然に触れて遊ぶ5歳児の姿が見られる。

### 事例から見られる10の姿の育ち 豊かな感性と表現

色水遊びを通して、子どもたちは、ワインや消防自動車、お茶の色などに見立て、自分なりの言葉で表現することを楽しんでいる。フェンスに階段状に吊るした色水を見て「色の階段」「青色階段だね」と微妙な青色の違いに気づき、それに共感する姿や、階段状のビニール袋を指先でトンントンと動かす身体表現も見られる。

自分たちで工夫しながら花や木の实を使って抽出する色水遊びの中で、子どもたちは鮮やかな色と出会う。その中で、みずみずしい感性を思いを巡らせ、感じたことを言葉や身体で表現して楽しむ5歳児の姿が見られる。

### 自然との関わり、生命尊重・豊かな感性と表現 環境構成のポイント

- 好きな場所で、色水遊びを楽しめる環境構成材料となる草花や木の实、色水作りの様々な道具、容器、テーブルの配置。色水を吊るしたり、色水の濃淡を楽しんだりするフェンスの利用。
- 子どもの気付きや感動を受け止め共感する保育者の存在  
「発見」「色の階段」と気付いたり感じたりして気持ちを表現する姿を見守り、共感し、色水を心ゆくまで楽しめる援助や環境構成を考える保育者。
- 同じ目的をもって楽しむ友達の存在  
色水を作ったり、色の違いに共感して「青色の階段」と表現したり、指で身体表現したりして色水遊びを楽しむ友達の存在。